

第13回の復習課題

試験の実施方法

kiso2 コマンドで「試験」表示されたファイルは、試験として実施されます。「試験」として出題されたファイルもkiso2 コマンドを用いて提出しますが、これらのファイルは試験実施中のみ提出することができます。

試験の実施方法は、以下の通りです。

1. 端末(ターミナル)上から、kiso2 コマンドに `-start-exam` オプションを付けて実行 (`kiso2 -start-exam`) することで試験が開始されます。表示フォントの関係で見にくいかもしれませんが、kiso2 の後にスペースを開けて `-start-exam` (先頭のハイフンは2つ「マイナス・マイナス」`start`「マイナス」`exam`) です。
2. 試験が開始されると、試験開始のメッセージと共にウェブブラウザで試験用Webページが自動的に表示されます(本試験でないときは科目ページが表示)。
3. 試験の実施中は、端末(ターミナル)上で経過時間と残り時間が不定期に更新され、kiso2 コマンドで「試験」表示されたファイルが提出できます。
4. kiso2 コマンドで「試験」ファイルを提出する場合は、kiso2 `-start-exam` で試験を開始した端末(ターミナル)とは別の端末(ターミナル)をもう一つ起動し、その端末でkiso2 コマンドによるファイルの提出を行ってください。
5. 試験実施中は、不定期にデスクトップ画面のスクリーンショットが取得されます。
6. 試験の残り時間が100秒を切ると1秒毎のカウントダウンが表示され、残り時間が0になると kiso2 `-start-exam` コマンドと共に試験が終了します。
7. kiso2 `-start-exam` コマンドが強制終了された後や、すでに起動している場合は kiso2 `-start-exam` の再実行が行われます。ただし、kiso2 `-start-exam` コマンドは、再起動される度に残り試験時間が10分ずつ減るので注意して下さい。

ex14 のすべての課題は「試験」実施の練習用課題として出題されています。「試験の実施方法」をよく読んで、試験に参加できるようにしておいてください。現在は、1回の試験時間を10分とし、何度でも試験に参加できるように設定されていますので、繰り返し試験問題の提出を練習しておいてください。

ex13-7.c

大きさ50の整数型の配列変数 `data[]` が以下のように与えられている。同じ大きさ50の2つの整数型配列 `even[]`, `odd[]` を用意し、`even[]` には `data[]` の要素のうち値が偶数のもの全てを、また `odd[]` には奇数のもの全てを要素番号が小さい方から隙間なく順に代入し、最後にそれらを出力するプログラム **ex13-7.c** を作成してkiso2コマンドを用いて提出しなさい。

```
int data[] = {49, 20, 76, 16, 62, 0, 20, 80, 58, 25, 25, 48, 100, 25, 85,
34, 75, 21, 87, 32, 41, 92, 90, 54, 0,
1, 58, 56, 8, 83, 90, 44, 15, 84, 28, 26, 52, 6, 66, 57, 81,
58, 1, 67, 69, 70, 27, 18, 95, 67};
```

実行例：

```
t190900@s01cd0542-160:~/kiso2-2019/ex13$ ./ex13-7
EVEN: 20 76 16 62 0 20 80 58 48 100 34 32 92 90 54 0 58 56 8 90 44 84 28 26
52 6 66 58 70 18
```

ODD: 49 25 25 25 85 75 21 87 41 1 83 15 57 81 1 67 69 27 95 67

[第14回基本課題へ](#)

From:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/> - **www-slab.math**

Permanent link:

<https://www-slab.math.ryukoku.ac.jp/lecture/kiso2/2018/rev13>



Last update: **2019/09/23 13:24**